

スローフード協会来日記者発表報告

サローネ・デル・グスト2002とは

2002年6月、イタリアに本部を置くスローフード協会の副会長以下4名が来日。今年10月イタリアのトリノで開催する食の祭典「サローネ・デル・グスト」についての記者発表が27日、新宿パークタワービル地下1F レストラン・カフェーズにおいて行なわれました。今回の来日にはらでいっしゅぼーや(株)が特別協賛しています。

Report

■スローフード運動の最も大切な祭典



副会長
ジャコモ・モヨリ氏

サローネ・デル・グストは世界一の食の祭典。96年から始まり2年に一回開催し、今年

で4回目。10月24日から28日までトリノのリンゴット会場にて開催される。食だけではなく食文化の周辺事情(=文化、慣習)を紹介する場でありたいと思っている。この祭典は、小生産者が真の主角であり、食の品質においても世界の注目を集めている。開催期間中は食における生物学的多様性(バイオディヴェルシタ)の視点からこれらを守る小生産者たちを紹介、この祭典を彼らのグローバルビレッジとして表現したい。また、味覚や食文化にかかわる食育の大切さも訴えていく。消費者が食の品質を正しく理解しなければマーケティングも広告も無意味。そして食の品質を正しく理解するには、幼少のときからの味覚の訓練が必要だ。開催期間中、小・中学生を集めて100以上のラボで五感を使ったテイスティングなどの食育を行なう。

サローネ・デル・グストはスローフード運動の最も大切な祭りであり、食品の品質のテーマのもと、世界の人々が集結するイベント。また現代の消費者はどのような傾向があるか、将来の食事情はどうなるのか、安全性は?といったことを知るラボラトリー的な意味もある。

サローネ・デル・グストのあゆみ

	開催年	来場者数	マスコミ関係者	食材紹介国	備考
第1回	1996	1万5千人	200人	40ヶ国	
第2回	1998	12万人	700人	60ヶ国	味覚の方舟プロジェクト ^(※) 発足
第3回	2000	13万人	2000人	80ヶ国	プロジェクトが実践されたことを発表

(※) The Ark of Taste and Presidia:味覚の方舟とプレシディオ 絶滅の危機に瀕している食品をいかに守るかをテーマとしている

■日本の食も振る舞われます



国際部長
レナート・サルド氏

今回の祭典は、5大陸に渡る絶滅危惧食品、世界の生物学的多様性を守るという

国際的なプレシディオ^(※)という位置付けもある。イタリアから130品、世界から30品の高品質な食材を作る生産者・食品メーカーが出展する。また国際パビリオンでは、オーストリア、スペイン、イスラエル、アメリカ、アルゼンチンなどから100の生産者が出展。イタリアのパビリオンでは「美食の国」と題して、チーズ、パン、ハムなどテーマ別に分かれる。

レストランでは世界の著名なシェフを招聘、昼食や夕食会を催す。日本からはフレンチシェフの三國清三氏が担当する。これは小黒一三氏(月刊『ソトコト』編集長)、吉開俊也氏(ニッポン東京スローフード協会事務局長)、島村菜津氏(ノンフィクション作家『スローフードな人生!』著者)によるコーディネート。日本の食材をフレンチにアレンジして紹介する予定。また世界の料理広場には寿司バーや日本酒バーも設置され、振る舞われる。

■ピエモンテ州における味覚教育とは



広報担当
アレッサンドラ・アポーナ氏

味覚教育 = 食育について。

ピエモンテ州が大々的に協力

してくれており、イタリア文部省公認でもある。イタリアの農水省から資金援助を得ている。

三ヵ年計画で99年にスタート。スローフード協会のチームがピエモンテ州の先生1200人に対し養成教育を開始。子どもたちに五感を使う味覚を伝えるためには、まずは学校の先生に食に対する正しい知識や考え方を教えるのが先決と考えるため(学校からの希望があれば、出向いたことも)。科学的なアプローチだけでなく楽しく知ってもらうことをコンセプトにした。2年目は、学校の生徒と生産者の出会いの場を作ることを目的とした。3年目は、ピエモンテ州と協同でCD-ROM(穀物、パン、野菜などのカテゴリ別に情報が入っている)を作成。

このプロジェクトはイタリアの他州からも要請が来ており学校のカリキュラムにも取り入れられている。2004年には味覚に関する大学を創設したい。

(事務局・島田)

10月23日、第3回国際スローフード賞の表彰が行なわれます。この賞は絶滅の恐れのある食や生物、動物を守ることに貢献した人(持続可能な生産活動を行なう人)、生態系を守る学者、研究者にも贈られ、現在100人以上がノミネートされています。審査員には、今回日本も招かれており、アメリカ、ドイツ、アフリカ、ロシア、フランスなど600人の審査員が賞の認定にあたります。

Report